

平成 28 年 度

事 業 計 画 書

社会福祉法人 新井田福社会

幼保連携型認定こども園 こども園青い鳥

## 1 基本方針

義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして満3歳以上の子どもに対する教育並びに保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行うことを目的とする。

## 2 教育・保育目標

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成26年内閣府・文部科学省・厚生労働省告示第1号）に基づいて、保護者の就労状況等により入園時期や在園時間の異なる子どもを受け入れる施設として、園児に健やかな成長が図られるよう適当な環境を整えることを意識しながら、教育・保育を行う。

## 3 運営方針

- ① 十分に養護の行き届いた環境の基に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を適切に満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。
- ② 健康や安全などの日常生活に必要な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと。
- ③ 人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切に育てるとともに自立、強調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。
- ④ 自然や社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の基礎を培うこと。
- ⑤ 生活の中で、言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり、聞いたりする態度や豊かな言葉を養う。
- ⑥ 様々な体験を通して豊かな感性を育て、創造性の芽生えを培うこと。

## 4 保健衛生、健康管理

健康管理、保健衛生面については、生命尊厳の立場から十分に考慮しなければならない。

## 5 給食

食事は生活習慣設備面の充実や衣、または身体面の管理と併せて両者の安定した生命維持の最大条件の1つであるため、条件にあった献立を作成しニーズに応じていくようにする。

## 6 非常災害対策

生命の安全を確保することは集団生活において、特に細部にわたり考慮しなければならない。

生命の安全を確保することは集団生活において、特に細部にわたり考慮しなければならない。

- ① 計画的な防災、避難訓練の定期的な実施
  - ・園長・・・・・・・・総指揮
  - ・主幹保育教諭・・・・・・・・連絡を担当する
  - ・その他の職員・・・・・・・・報告及び救助を担当する
- ② 消火設備等の設置及び定期点検
- ③ 自衛消防組織、緊急時の連絡
- ④ 関係機関との連携

## **7 建物、器具等の整備及び管理**

建物、器具がいかなる時でも、その機能を正しく発揮できるように普段から整備点検を行う。

- ① 窓、戸、壁、椅子、机等の補修や整備
- ② ガス漏れ、冷暖房、調理器具、浄化槽装置等の点検

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まであきらめず、常にチャレンジ精神を持ち挑戦する子ども</li> <li>・様々な生活経験を通じ探究心を持ち続ける子ども</li> </ul>	方針	子どもの健やかな成長が育まれるよう「身体的教育・知育的教育」を主とした保育と保護者支援
月 期	子 ども の す が た	ね ら い	
4月	1 学期 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の変化に伴い情緒が不安定になりがち。</li> <li>・新しい生活のリズムや 保育教諭に慣れようとする。</li> <li>・周りの事に興味が分散し集中できず、保育教諭の話も耳に入らなくなり、他の物事に夢中になるが、遊びは長続きしない。</li> <li>・戸外や遊具による遊びを好むようになると共に、友だちへの関心も高まっていく。</li> <li>・園生活の流れがわかり環境にもなれると、個々の遊びも活発になる。その反面トラブルが増える。</li> <li>・運動会に向けて、みんなで力を合わせて表現する喜びやチームで競い合う面白さを味わい積極的に参加する。</li> <li>・遊具やごっこ遊びなどを通して、友だちとのつながりが出てくるようになる。</li> </ul>	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練をととして、命の大切さ再確認する。</li> <li>・喜んで登園し、新しい環境の中で、友達や保育教諭等に親しみを持って過ごし、集団生活に早く慣れる。</li> </ul>
5月		5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園外保育や散歩を通して公共のマナーや交通ルールに興味、関心を持ち理解を深める。</li> <li>・土に触れ食物を育てることで、食への関心を高める。</li> </ul>
6月		6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の練習を通し、集団行動を身に付け仲間意識を高めと共に最後まで頑張る事で達成感を得られるようにする。</li> <li>・衛生面に気をつけながら、夏を快適に健康に過ごす。</li> </ul>
7月		7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の生活を楽しみながら創意工夫、自然への関心を深める。</li> <li>・衛生面に気をつけながら、夏を快適に健康に過ごす。</li> </ul>
8月	2 学期 <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の祭りに興味を示し製作する喜びを味わう。</li> <li>・興味のあるものには進んで取り組む様になり、遊びの中で必要な言葉やルールがわかるようになる。</li> <li>・色々な材料に触れ使ったり、描いたりなどして、自分の意図したいものを表現し、楽しさを知る。</li> <li>・自己主張する様になり、ぶつかり合うことも多くなる。</li> <li>・運動機能が発達し、身近な遊具を大分自由に使えるようになり、ケガや事故につながりやすくなる。</li> <li>・自己統制ができるようになり、大人や友だちの話を聞いて行動できるようになる。</li> <li>・いろいろなリズム遊びを体で表現したり楽器を使って表現することに興味を持つ。</li> <li>・ごっこ遊びや絵本、話しを好み、劇遊びなどに発展し活発になる。</li> <li>・様々な行事を楽しみにし、期待する。</li> </ul>	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の祭りに興味を示し製作する喜びを味わう。</li> <li>・合同保育の中で交流を深めゆったりと過ごす。</li> </ul>
9月		9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏から秋への季節の移り変わりを肌で感じる。</li> <li>・秋の自然の中で、家族や祖父母と一緒に過ごすことで心身が満たせる。</li> </ul>
10月		10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園外保育に喜んで参加し社会的ルールへの理解を高めながら、自然豊かな実体験をする。</li> <li>・なわとび・鉄棒・マット等での日頃の体力作りの成果を発表することで更なる刺激を仲間から受ける。</li> </ul>
11月		11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的に行動すると共に創造力を養い協力して作り上げていく喜びを味わう。</li> <li>・器楽や音楽に触れ感性を養う。</li> </ul>
12月		12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会を通じて友達とイメージを共有しながら表現する喜びを味わう。</li> <li>・友達と共通の目的に向かって活動し、満足感を味わう。</li> </ul>
1月	3 学期 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な事柄や出来事に対する関心を、言葉で表現し、言葉による伝達、質問、会話が活発になる。</li> <li>・創造性が豊かになり作ったり、描いたり、行動したりすることを自分から進んで楽しみながら参加する。</li> <li>・進級、入学への期待がふくらみ、達成感を味わったり成長したことを友だちや保育教諭と共に喜ぶ。</li> <li>・一年を通して出来た事や頑張ったことを、友達や保育教諭に認めてもらうことで達成感を得る。</li> <li>・今までの経験を糧とし、遊びや日々の生活の中にも自信のある行動がみられてくる。</li> </ul>	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お正月遊びや冬の遊びを通じてグループ活動を活発にし集団生活に対する自覚を深める。</li> <li>・担当以外の保育者との触れあいを楽しむ。(シャッフル保育)</li> </ul>
2月		2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・からだを鍛えると共に、丈夫で健康な体力作りを食、保健など色々な視点から意識を高めていく。</li> <li>・寒さに負けず戸外で、元気にからだを動かし冬の自然に興味を持つ。</li> </ul>
3月		3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間との深いつながりを感じながら信頼感を持って過ごす中で、進級への期待を持って意欲的に過ごす。</li> <li>・年齢や育ちに合った基本的生活習慣の確立。</li> </ul>

## 9 年間教育・保育計画Ⅱ

### こども園青い鳥

月	単 元	今 月 の う た	行 事 予 定
4月	自由遊び 整列・行進 体力作り・食育	さんぼ 春が来た	・入園進級式・写真撮り・お誕生会・歯科・内科検診 ・総合避難訓練・ワンパクフェスティバル
5月	製作活動 体力作り マラソン 安全教育	こいのぼり うんどうかいのうた	・虫歯と時の記念日製作・お誕生会・保育参観
6月	戸外遊び 運動会 マラソン 食育	とけいのうた めだかのがっこう	・衣替え・役員会・運動会・お誕生会
7月	安全教育 地域交流 水遊び	たなばたさま どんないろがすき	・クラス遠足・七夕お誕生会・役員会 ・ねぶた祭り夕涼み会
8月	異年齢児の交流 水遊び 食育	うみ アイアイ	・卒園児の集い・お誕生会・お泊り保育
9月	地域交流 親子のふれあい 安全教育	虫のこえ おはようクレヨン	・親子遠足・施設慰問・お月見お誕生会 ・ふれあいウォーキング・個別面談
10月	戸外での自然探索 社会体験 体力作りの発表 食育	山の音楽家 世界中のこどもたちが	・衣替え・クラス遠足・修園旅行・お誕生会 ・総合避難訓練・何でもスポーツ大会
11月	表現活動 音楽活動 安全教育	発表会のうた どんぐりころころ	・七五三お宮参り・歯科・内科検診 ・水族館見学・お誕生会
12月	整理整頓 生活発表 地域交流 食育	赤鼻のトナカイ お正月	・クリスマス発表会・もちつき・ケーキ作り ・クリスマスお誕生会・施設訪問交流・大掃除
1月	雪遊び 体力作り 安全教育	ゆきのペンキやさん おもちゃのチャチャチャ	・お誕生会・伝承遊び
2月	進級準備 体力作り 生活習慣の確立 食育	鬼のパンツ おおきなうた	・節分・保育参観・おかし作り・お誕生会 ・ウインターフェスティバル・入園説明会
3月	生活習慣の確立 入学・進級準備 安全教育	春が来た ありがとうの花	・ひなまつりお誕生会・入学を語る会・卒園式 ・卒業おめでとう会・お別れ会・終了式

## 10 研修計画表

	研修内容等	研修実施機関	対象職員
4月	守秘義務に関する研修会 和太鼓研修会 マスゲーム 専門職としての基盤を作るために	施設内 幼児音楽研究会 社会福祉協議会	全職員 保育教諭 保育教諭
5月	運動会実技研修会 コミュニケーションのあり方の倫理的 感染症や応急手当等緊急時の対応	平田音楽事務所 青森市保育連合会 青森県立保健大学	保育教諭 新任保育教諭 保育関係者
6月	保育所乳児担当者研修会 社会福祉施設職員経理研修会 保育実技研修会（廃材を使ってみよう）	日本保育協会 青森県立保健大学 青森県保育連合会	乳児担当保育教諭 施設長・経理担当者 保育教諭
7月	職員のチームワークの調整の仕方 現場に役立つ研修会（リトミック） 保育士実技研修会（お遊戯会）	全国保育士会 日本保育協会青年部 青森市保育連合会	保育教諭 保育教諭 保育教諭
8月	保育士のためのリスクアセスメント研修会 主任保育士研修会（地域や保護者のニーズを把握する） 保育所におけるチームワークの意義	日本保育協会 青森県保育連合会 全国保育士会	保育関係者 主任クラス保育教諭 保育関係者
9月	給食指導担当者（食育について） 子どもと保護者との関係を支援する 女性部保育者研修会（カリキュラムの必要性）	青森県保育連合会 青森県立保健大学 日本保育協会	給食担当者 保育関係者 保育関係者
10月	保育所セミナー（知覚、感情、思考の伝達力を養う） 保育実技研修会（お遊戯会） 保育所中堅保育士研修	青森県立保健大学 青森県保育連合会 青森市保育連合会	施設長・経理担当者 保育教諭 中堅保育教諭
11月	給食研修会（栄養管理と衛生管理） 障害幼児教育研修公開講座 全国理事長・施設長クラス研修会（施設運営）	青森県保育連合会 青森県立保健大学 日本保育協会	給食担当者 障害児担当者 理事長・施設長
12月	（保育計画の策定方法を学ぶ） 感染症セミナー 認定こども園実践研修会（子どもの発達促進）	青森市保育連合会 青森県立保健大学 全国認定こども園協会	保育教諭 保育関係者 保育関係者
1月	施設長・主任クラス研修会（相談支援技術の基礎を学ぶ） 発達障害児研修会 教育訓練人材育成について	日本保育協会 青森市総合学校教育センター 社会福祉協議会	施設長・主任 障害児担当者 施設長
2月	日本保育協会青年部研修会（自己評価の考え方） 病後児保育の過ごし方 施設長研修会（施設経営の見直し）	日本保育協会 青森県保育連合会 青森市保育連合会	保育教諭 看護師 施設長
3月	危機管理セミナー 認定こども園の経営について 感染症について	日本保育協会 全国認定こども園協会 施設内	保育関係者 施設長 全職員